

## カキ「富有」におけるカキノヘタムシガ 第1世代幼虫の防除適期は満開10日後である

カキノヘタムシガは柿の芽や果実を加害する害虫です。食害を受けた果実はやがて変色して落果します。果実内部の虫には薬液が届かないため、果実に入る前に防除する必要があります。防除適期を判断するためには発生状況などを調べる必要があります。労力的に負担が大きく、これまでは適切な防除が困難でした。しかし、「富有」の満開日と第1世代幼虫の果実食入時期の関係を解明することにより、簡便に防除適期を把握する方法を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 「富有」の満開10日後はカキノヘタムシガ第1世代幼虫の芽の被害の発生後ですが果実食入前のため、防除適期にあたります(表1)。
2. 「富有」の満開10日後の防除により、カキノヘタムシガ第1世代幼虫による被害果率を殺虫剤無散布と比べて低く抑えることができますが、果実の食入後である満開20日後の防除では被害果率は殺虫剤無散布と差が認められなくなります(図1)。このことから、「富有」の満開10日後は生育状況の早晚によらない防除適期の簡易指標として利用できます。

表1 「富有」の満開日からカキノヘタムシガ第1世代幼虫の食入初期までの期間

試験圃場	「富有」の満開日	「富有」の満開日～食入初期(日)		
		芽	果実	
岐阜県	2012年「富有」圃場1	5月25日	10	17
	2013年「富有」圃場1	5月23日	13	20
	2013年「富有」圃場2	5月24日	12	26
	2013年「富有」現地圃場	5月26日	10	17
広島県	2012年「富有」圃場	5月31日	4	11
島根県	2012年「富有」圃場	5月28日	8	11
	2013年「富有」圃場	5月30日	10	15

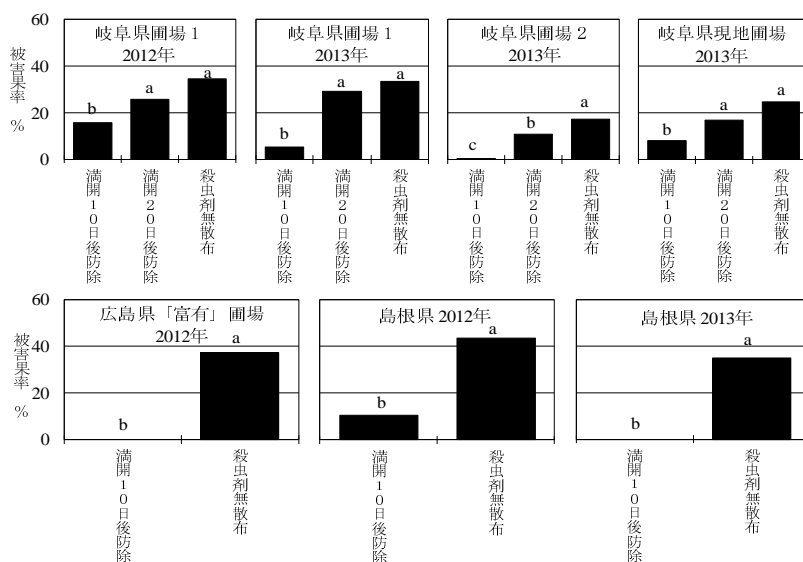


図1 カキノヘタムシガ第1世代幼虫による「富有」被害果率 図中の同一文字間に有意差はなし ( $\chi^2$  検定、5%水準)

防除薬剤は

岐阜県：アラニカルブ水和剤1,000倍、  
 広島県2012年：フェニトロチオン水和剤1,000倍、  
 島根県2012年：アセフェート水和剤1,000倍、  
 2013年：アセタミプリド水溶剤2,000倍

### ☆ 活用面での留意点

1. 掲載した防除剤は一例で、各都府県の防除指針に掲載されている薬剤に対して適用できます。
2. 満開日とは、開花率が80%に達した日です。
3. 詳細については、農研機構果樹茶業研究部門(電話：0846・45・4762)へお問い合わせください。

(農研機構 果樹茶業研究部門 ブドウ・カキ研究領域 新井朋徳)